

FCT第12回メディア・リテラシー研修セミナー開催

～オルタナティブ・メディアを意識して～

第12回メディア・リテラシー研修セミナーは、例年通り、神奈川県立かながわ女性センターを会場にして、8月8日（土）から9日（日）の1泊2日の日程で実施された。参加者は、首都圏を中心に、大阪府、京都府、愛知県などから集まり、その所属は高校教員、留学生を含む大学院生、大学生、NPO関係者、医学療法士、メディア制作者など多様である。このFCTオリジナルのワークショップ形式によるセミナーは、今後、各地域での学校教育、研究活動および生涯学習の場において、メディア・リテラシーの実践へと繋がるものと確信している。昨年に引き続いての参加者から、高校での授業を継続して実践しているとのうれしい声も聞かれた。

セミナー1日目は、『新版Study Guideメディア・リテラシー入門編』を中心に、メディア・リテラシーの基本概念に沿って学ぶという構成で、「メディア・リテラシーとはなにか、なぜ学ぶのか」という講義の後に、ニュース分析（「沖縄慰霊の日」）、テレビCM分析（「高齢者CM」）のワークショップをおこなった。

その後に、1日目の最後のセッションとして、「オルタナティブ・メディアとは」というタイトルで、映像作家の鎌仲ひとみさんによる講義と、その作品『ぶんぶん通信』を視聴した

(<http://888earth.net/index.html>)。これは、2日目に参加者自らがメディアを制作し、完成した作品を評価しあうセッションを予定しているので、まず、オルタナティブ・メディアの概念を学ぶ必要があるからである。

このセッションで、鎌仲さんは、1998年にイラク取材をし、NHKでテレビ番組制作をした際の体験から、マスメディアにおける映像制作の限界と、オルタナティブ・メディアとして映画メディアを選択した過程を話された。

『ぶんぶん通信』はビデオレター形式のDVDで、現在、No.1、No.2を制作して全国で自主上映会を幅広く開催しているが、最終的には映画の完成に繋げるという活動である。鎌仲さんは『ぶんぶん通信』で、中国電力の原発建設に直面する山口県祝島と、脱原発のスウェーデンとを対比しつつ、生命多様化と民主主義のあり方を、このビデオレターを観る人に問うている。

2日目は、『スキヤニング・テレビジョン日本版』を使用してのワークショップの後に、メディア制作のセッションが続き、前日のクリティカルなメディア分析の経験を生かしつつオルタナティブ・メディアを意識しての作品制作となった。「ジェンダー」、「メディアと若者と選挙」、「メディア・リテラシーの必要性」をテーマに、問題意識を明確にして3グループによる作品が作られている。この作業を通して、参加者は名優や、名カメラマン、名監督にもなり、作ることの楽しさを体験しつつ、メディア・リテラシーの学びを深めることができたのではないかと捉えている。

（ファシリテーター：宮崎寿子、新開清子、田島知之、登丸あすか、西村寿子、森本洋介）